

令和5年度大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

<p>所属名</p>	<p>附属池田中学校・附属高等学校池田校舎・多文化教育系</p>
<p>研究課題名</p>	<p>「社会科」において、小中高の連続する学びを、児童・生徒のどのような姿から見ることができるか～池田キャンパスにおける子どもの学びの変容を明らかにする～</p>
<p>研究課題概要</p>	<p>子ども達にとって「社会科」の学びは小中高と連続するものである。しかし、授業者が「社会科」の学びを、校種を越えた学びとして捉え、それを授業改善に活かすことができていないのではないだろうか。まず、子どもが10年間の「社会科」の中でどのような学びを獲得し、変容するのかを可視化することで、「社会科」における小中高それぞれの学びの特徴を、実際の子どもの姿から明らかにした。実際に、小学4年生の社会科、中学3年生の社会科（公民）、高校2年生の公民（公共）の授業の中で、同じテーマを扱ったカリキュラムを作成し、実践を行った。その実践を通して、それぞれの校種の子どもたちの思考の枠組みの特徴を捉えることができた。その後、共同で実践を行うことにより、子ども達の思考の枠組みに大きな変容がみられた。この変容を学びと捉え分析を行った。これらの成果を活かして、小中高の教員が集まってコモンルーブリック（主体性の評価）を作成し、10年間の一貫した評価軸の案を提案した。池田キャンパスの子どもの姿から評価の観点を作成し、また校種を越えた教員で集まって検討ができたことは、授業者自身の授業改善の視点の転換に繋がった。また、本研究は、池田キャンパスが次年度以降課題とする小中高のコモンルーブリック作成の先駆けの取り組みとなった。</p>
<p>研究課題の構成員 （リーダーに※）</p>	<p>神内千波（附属高等学校池田校舎）※ 西邑 悠祐（以下附属池田中学校） 田中 誠也 高山 翔平 峯 明秀（多文化教育系）</p>